

ひらか 連携ニュース

当室では、地域医療機関との連携強化や地域における医療水準の向上を目的に、オープンベッドの運用を推進しています。

今冬は特に地域医療機関からのご希望が多く、12月17名、1月19名の患者さんにご利用いただきました。オープンベッドの回診は、患者さん、かかりつけ医の先生の笑顔があふれ、患者さんに元気と安心感を与えています。今回は、そんな回診の一コマをご紹介します。

患者さんの笑顔あふれるオープンベッド 回診の一コマ

ケース1. Aさん 70代 女性 脳出血 紹介元 D医院

「先生、よく来てけだな〜。」

回診にいらしたD先生にお会いし、満面の笑みを見せてくれたAさん。現在の症状や心配事をD先生へいろいろと話していました。

担当看護師からの報告で、Aさんの息子さんが、主治医より血腫除去術の説明を受け、手術を受けるかどうか悩んでいることがわかりました。回診後、D先生と息子さん、主治医で相談しあい、翌日、手術を行うことになりました。

かかりつけ医の助言が、患者さんやご家族を勇気づけ、意思決定を促すきっかけとなりました。



ケース2. Bさん 80代 女性 胆管がん 紹介元 E医院

「Bさん、どうですか？苦しいところはないですか？」

胆管がんにより、黄染と全身の衰弱が進み反応が乏しくなったBさんですが、E先生の呼びかけにうっすらと目を開けました。Bさんに繰り返し声をかけながら、丁寧に腹部の診察をされるE先生の姿に、患者さんと先生の信頼関係の深さを感じました。

回診時に、主治医よりE先生へ現在の病状について説明が行われ「ご家族と施設でのお看取りを考えていた方。炎症症状が改善したら退院の方向。」と今後の方針を確認しあいました。



ケース3. Cさん 80代 男性 小脳出血 紹介元 F医院

「先生、どうもどうも。今回はあどダメだと思ったども救急車呼んでもらって助かった！」
数か月前に、脳梗塞を経験したCさん。今回は急な頭痛・嘔吐が出現し、小脳出血の診断で入院されました。幸いにも出血巣は小範囲で、症状の進行はなく、順調にリハビリが進められていました。

F先生は、これまでの自宅での生活環境や排泄動作等を確認し、Cさんの「自宅でどのように暮らしたいか」という想いを尊重しながら、今後、リハビリをどのようにすすめたらよいかCさんや担当看護師と相談していました。

退院に向け、回診内容を担当のOTと情報共有し、リハビリの状況をF先生へフィードバックしています。

地域医療機関の先生方、当院の主治医、病棟看護師の皆様、ご多忙の中、オープンベッドの運用にご協力いただきありがとうございます。

今後ともよろしく
お願いいたします。

地域医療連携室

大日向・大沢・中嶋

